

科目ナンバリング		G-LAS14 80002 LJ44											
授業科目名 <英訳>		ビジネスエシックス Business Ethics					担当者所属 職名・氏名		経営管理大学院 専門職大学院特別教授 幸田 博人 経営管理大学院 客員教授 徳賀 芳弘				
群		大学院横断教育科目群			分野(分類)		キャリア形成系			使用言語		日本語	
旧群		単位数		2単位		週コマ数		1コマ		授業形態		講義（対面授業科目）	
開講年度・ 開講期		2024・前期		曜時限		金5		配当学年		大学院生		対象学生 全学向	
(経営管理大学院, 経済学研究科の学生は, 全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。)													
[授業の概要・目的]													
「ビジネスエシックス」は、企業の基本的な行動規範のあり方について、様々な規律付けを企業価値成長の枠組みとして考察する講義である。企業活動の倫理性、あるいは企業の社会的責任は、その対象と意味を大きく拡張しながら、少しずつ社会全般に理解され根付きつつある。企業は利潤獲得のみによって責任を免れるのではなく、ステークホルダーと市民社会に弊害をもたらさず、地球環境にも負荷を与えないことが責務とされ、企業に対する広範で実効性のある行動規範が要求されるようになった。 「ビジネスエシックス」という講義タイトルであるが、倫理性（倫理学）の視点から多くを論ずるのではなく（合理的経済人としてのヒトのみでなく、倫理性を持つヒトも扱うが）、主に経済的合理性の視点からどうすれば企業不正を減らす、さらには様々な規律付けを企業価値成長に結びつけていくことができるかといった問題を扱っている。 講義は主に①企業の利潤追求と倫理、#10113コーポレートガバナンスと内部統制、及び③企業不正と規制の3つの主題から構成されている。①では、企業の利潤追求と外部性の問題を扱う。#10113では、日本における内部統制制度とコーポレートガバナンスの現状と課題について検討する。③では、企業不正の原因と解決・緩和に向けた方策について検討する。 なお、この授業はみずほ証券寄付講座提供授業として運営を行い、経営管理大学院の倫理科目として、強く履修を推奨するものである。													
[到達目標]													
企業活動と社会経済厚生との相互関係について、バランスのとれた理解が可能な体系的で具体的な知識を具体的に理解し習得する。													
[授業計画と内容]													
【授業計画と内容】 毎週金曜日の 5 限 2023年度実績													
第1回 オリエンテーション「ビジネスエシックスの学び方」（幸田先生、徳賀先生） 第2回 企業の利潤追求と倫理①「企業の社会的責任と社会課題の解決」（明治大学：高巖先生） 第3回 企業の利潤追求と倫理②「ビジネスエシックスと哲学」（慶應義塾大学：梅津光弘先生） 第4回 企業の利潤追求と倫理③「ビジネスエシックスと経済学」（徳賀先生） 第5回 企業の利潤追求と倫理④「コーポレートガバナンスと企業価値」（上田亮子先生） 第6回 企業の利潤追求と倫理⑤「ビジネスエシックスと企業価値」（幸田先生） 第7回 コーポレートガバナンスと内部統制①「企業戦略とビジネス法務」（慶應義塾大学：菅原貴与志先生） 第8回 コーポレートガバナンスと内部統制②「証券市場とビジネスエシックス」（みずほ証券：白川至氏）													

ビジネスエシックス(2)へ続く↓↓↓													

ビジネスエシックス(2)

第9回 コーポレートガバナンスと内部統制③「コーポレートガバナンスとビジネスエシックス」(野村総合研究所：嶋本正氏)

第10回 企業不正と規制①「金融庁のコーポレートガバナンス政策」(金融庁：松井章氏)

第11回 企業不正と規制②「日本の会計規制制度と不適切会計・不正会計の深層」(徳賀先生)

第12回 企業不正と規制③「企業不正の事例とその原因及び企業のリスク管理体制」(中央大学：藤沼亜紀氏)

第13回 企業不正と規制④「日本における内部統制制度」(監査法人トーマツ：津村直也氏)

第14回 「ビジネスエシックスの今後の方向」(幸田先生、徳賀先生)

第15回 (メールベース) フィードバック (幸田先生、徳賀先生)

2024年度については、決定次第追って連絡する。

[履修要件]

特に具体的な履修要件は課さないが、現実の企業と社会との関係についての旺盛な関心を求める。

[成績評価の方法・観点]

- ・講義内容についてのレポート(講義ごとにPandA「テスト・クイズ」)を講義日翌週の金曜正午までに提出(35%)
- ・最終試験の成績(65%)

[教科書]

使用しない

特に特定の教科書は用いない。教材と必要な資料は授業において配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

講義が行われるトピック(会社、事業体等)の概要について予習し、さらに授業終了後に配布された資料の内容を復習しておくこと。

[その他(オフィスアワー等)]

各授業の終了後にオフィス・アワーを設ける。その他の時間帯については、事前にメールにて問い合わせること。

その際の問合せはみずほ証券寄附講座：山本(yamamoto.chiharu.3m@kyoto-u.ac.jp)までお願いいたします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。